東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006年1月6日

社会における宗教の位置

親愛なるムスリムの皆様。宗教は、知能の持ち主である人間を、自らの意思と希望をその道において幸福へと到達させる、神聖な規則の集まりです。

宗教は人間に、その本質、どこから来てどこへ行くのか、創造された理由、目的を明らかにします。創造者に対するしもべとしての服従、被造物に対する人間としての義務を教えます。こういった意味で示される宗教とは、疑いなくイスラームを意味します。

アッラーはクルアーンで次のように仰せられておられます。「本当にアッラーの御許の教えは、イスラーム（主の意志に服従、帰依すること）である。」（イムラーン家章第１９節）

「イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。」（イムラーン家章第８５節）

親愛なるムスリムの皆様。宗教は人々に、お互いを助けさせ、社会に優れた徳と社会的平等をもたらす最大のものです。宗教的感情、アッラーへの畏怖は、人を常に自問させ、悪事から守り、善行へと導きます。

私たちの時代においては、あらゆる便利さや発達した技術にもかかわらず、人々の間の緊張や不満は増す一方です。薬物、アルコール、家庭内の不和、自殺、侵略、戦争、抑圧、略奪、暴行、終わりのない暴力、テロ、これらは、集団の精神に深い影響を与えています。これらは全て、現代の人々が信仰から遠ざかり、クルアーンが告げている神聖なメッセージに耳を傾けようとしないことからもたらせるといえるでしょう。イスラームの教えの意図するところは、知識と信仰によって育てられた、穢れのない世代、集団を形成することなのです。

親愛なるムスリムの皆様。宗教は、人々を悪から、そして精神的緊張から守ります。努力することを命じ、怠慢であることを禁じます。憎しみ、妬み、敵意と言ったものを許していません。敵に対してすらも、許しと慈しみを強く勧めているのです。家族を崩壊させる、飲酒や賭け事、姦通と言ったものを禁じています。一人の人を殺すことは、全ての人を殺すに値する、と説いています。自らの命を絶つことを、最大の罪と定めています。災い、苦難に対しては、忍耐を薦めています。孤独や無力さに対して、唯一庇護を求められる先がアッラーであることを知らせています。アッラーは、「これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」（雷電章第２８節）と仰せられておられるのです。

今日のホトバを、次の章句で締めくくりたいと思います。「見なさい。アッラーの友には本当に恐れもなく、憂いもないであろう。かれらは信仰し、（アッラーを）畏れていた者たち。かれらに対しては現世でも、来世においても吉報がある。アッラーの御言葉には変更はない。それこそは偉大な、幸福の成就である。」（ユーヌス章第６２節）